

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,638	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,638

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス 総 排 出 量	1,913	t-CO ₂	1,884	t-CO ₂	1,887	t-CO ₂	1,850	t-CO ₂	1,638	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			1.5	%	1.3	%	3.3	%	14.4	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	277	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%	85.5	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの 排 出 量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

総排出量が基準年度比14.4%減で目標達成。
2024年1月より、一部の製品を他工場に移管したことで、電気・ガスの使用量が減少。一方で生産数量は年々増加傾向にあり、工場稼働時間は増加している。引き続き、高効率なエアコンへの更新や照明のLED化を継続して実施する。また、2024年度より非化石証書を取得し、電気使用量に対するCO2排出は実質ゼロを達成した。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理	<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステムの維持、向上 ・エネルギー使用量の把握、分析 ・CO2排出量の把握、分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001の維持による、環境施策の継続改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001の継続運用。 ・月別のエネルギー使用量、CO2排出量を算出し、毎月の環境保全委員会にて各職場に共有。
省エネルギーの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化且つ非効率な空調機/圧縮機等の更新 ・昼休憩時の照明OFF ・月1回のNo残業デーの設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン（R22使用機種）の更新を実施。 ・照明のLED化を実施。 ・休憩時間中（12:00～13:00）の事務所照明をOFF。 ・月1回のNo残業デーの遵守。
工場等の製造工程における対策	<ul style="list-style-type: none"> ・エア漏れ箇所の撲滅 ・蒸気漏れ箇所の撲滅 	<ul style="list-style-type: none"> ・製造工程におけるエネルギーロスの削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・エア漏れ確認巡回の継続。 ・蒸気漏れ確認巡回の継続。 ・水冷式ポンプの空冷式ポンプ化により、水使用量を削減。
廃棄物の排出抑制等	<ul style="list-style-type: none"> ・帳票の電子化 ・植物性残渣のリサイクル率100%の維持 ・包材歩留改善による廃プラ排出量の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・省資源、リサイクル率の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・製造ロスを低減し、植物性残渣の排出量を抑制。 ・現場の設備点検帳票の一部電子化を継続。
環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・社員、従業員への定期的な環境教育の実施 ・全従業員からの環境に関する提案制度の実施 ・環境情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員の環境意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃掃法に関する説明会を実施。 ・ISO14001内部監査員資格取得の推進。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
その他クレジット		1,361.0 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

1,361.0	t-CO ₂
---------	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・環境法令の遵守状況の確認を実施 ・環境意識啓蒙のための環境資料の掲示等
